

矢作川下流圏域 流域委員会

平成19年12月17日

資料の構成

1. 計画検討の枠組みと検討の流れ
2. 矢作川下流圏域の概要
 - 2.1 圏域の概要
 - 2.2 圏域の歴史
 - 2.3 関連計画
3. 矢作川下流圏域の現状
 - 3.1 現状【治水】
 - 3.1.1 矢作古川
 - 3.1.2 鹿乗川
 - 3.2 現状【環境・利水】
4. 第1回住民アンケート結果
5. 矢作川下流圏域の課題
6. 今後の予定

1. 計画検討の枠組みと検討の流れ

1.計画検討の枠組みと検討の流れ

■ 河川整備基本方針及び河川整備計画について

河川整備基本方針

将来の河川像を示す計画
河川管理の基本となる計画

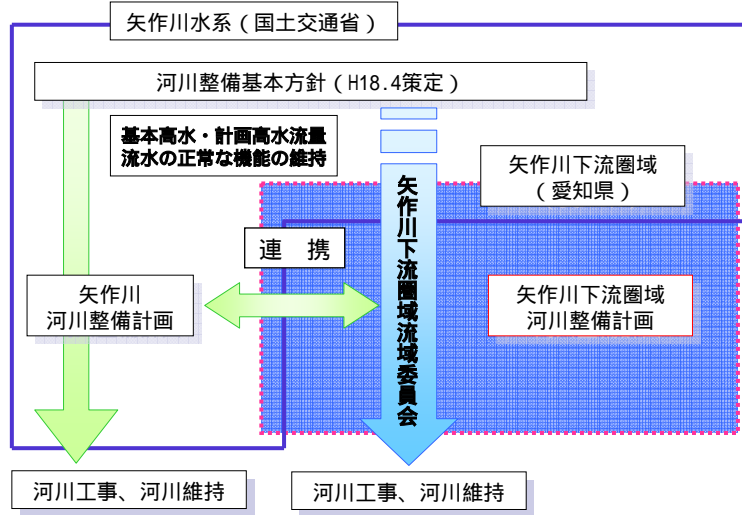
河川整備計画

今後概ね30年間の具体的な整備の内容を示す計画
策定にあたり学識経験者、地域住民、関係市町村長の意見を聴取
河川整備の目標
河川工事の内容
河川の維持の内容

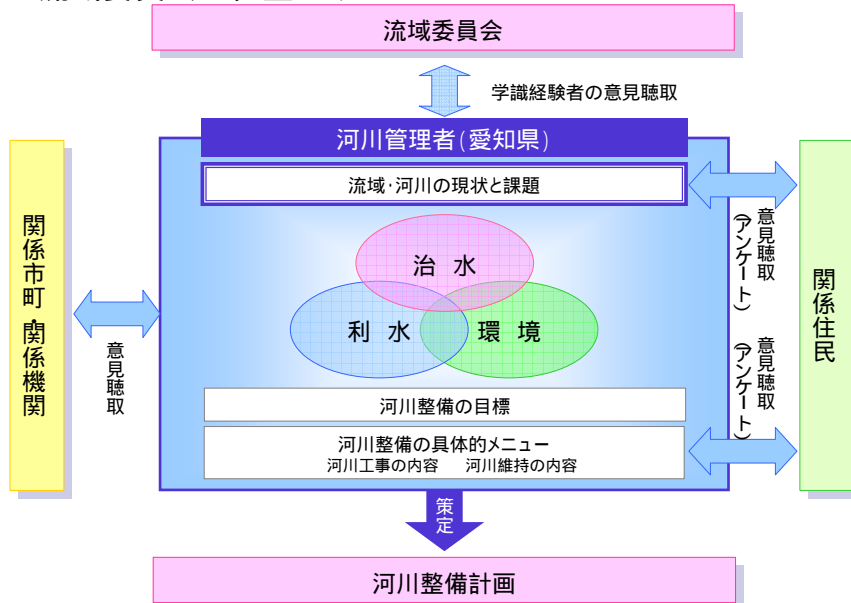
河川工事・河川維持

■検討の枠組み

- 本委員会は、国土交通省で現在検討中の矢作川水系河川整備計画と連携を図りながら進行する。



■流域委員会の位置づけ



■ 矢作川下流圏域流域委員会スケジュールと本日の主題

第1回住民アンケート（平成19年8月～9月）
・ 河川に対する住民意識とニーズの把握



第1回目の流域委員会（平成19年12月17日）
現状の整理と課題の抽出
第1回住民アンケートの結果の確認



現地視察（平成19年12月17日）
・ 現地においての課題の確認



第2回流域委員会
・ 課題に対する方向性の検討
・ 第2回住民アンケート（案）の検討



第2回住民アンケート
・ 河川整備計画（原案）に対する住民意見の把握



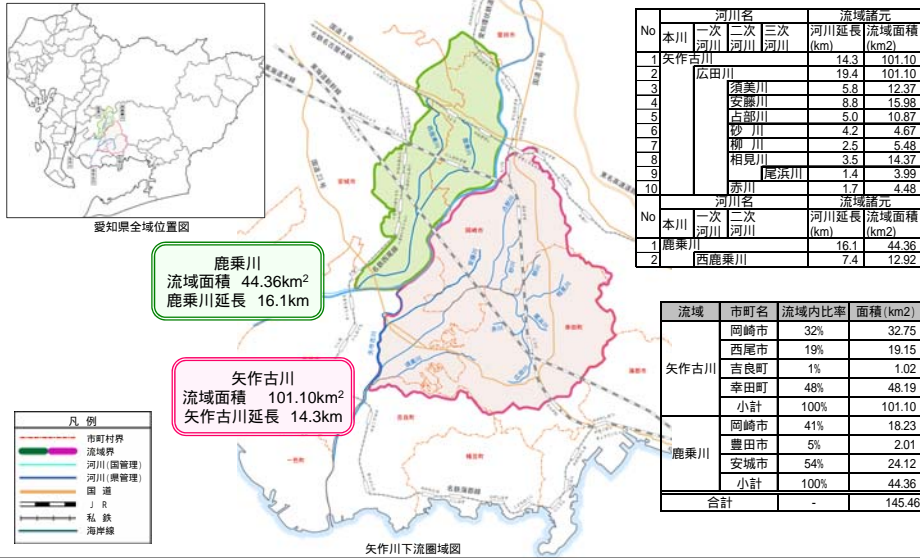
第3回流域委員会
・ 河川整備計画（原案）の検討

2. 矢作川下流圏域の概要

- 2.1 圏域の概要
- 2.2 圏域の歴史
- 2.3 関連計画

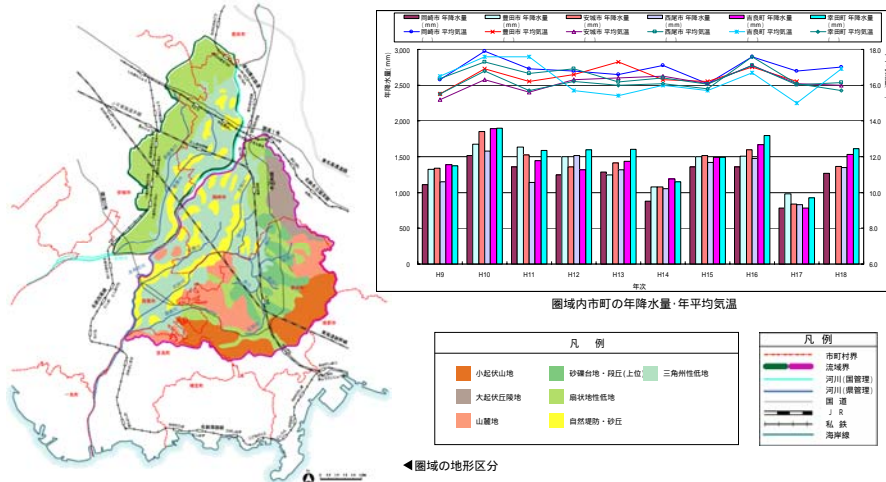
■ 矢作川下流圏域の概要

・矢作川下流圏域は矢作川の左右岸に位置し、愛知県が管理する矢作川派川である矢作古川流域と矢作川支川である鹿乗川流域からなり、その面積は約145km²である。



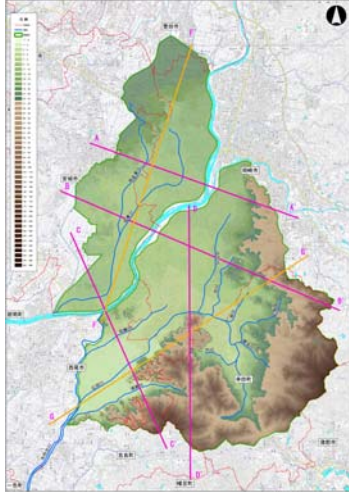
■ 圏域の気象と地形

- ・年降水量の平均値は1,200～1,500mm程度である。
- ・年平均気温は16℃程度で温和な気候である。
- ・東部から南部にかけて、小起伏山地・山麓地が見られる。
- ・西側には扇状地性低地が広がっている。
- ・各河川沿いには自然堤防・砂丘と三角州性低地が広がっている。

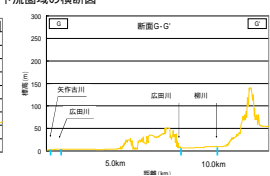
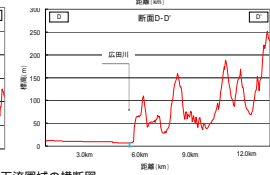
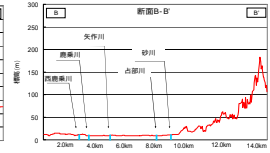
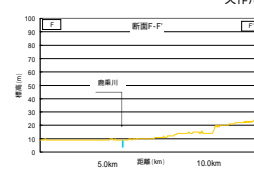
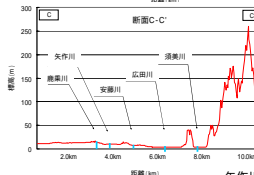
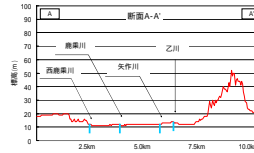


■ 圏域の標高区分

- 矢作古川周辺は市街地及び水田が広がり、低平地となっている。
- 須美川、広田川、相見川上流部は山地となっており、標高は250m以上ある。
- 鹿乗川流域は、古くから矢作川の氾濫域であったことから、河道周辺には低地が広がり、高低差も小さくならかな地形となっている。



矢作川下流域の標高区分図



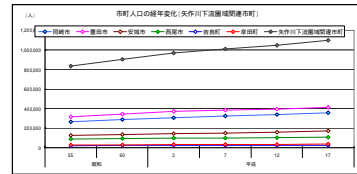
矢作川下流域の横断面

鹿乗川流域の縦断面

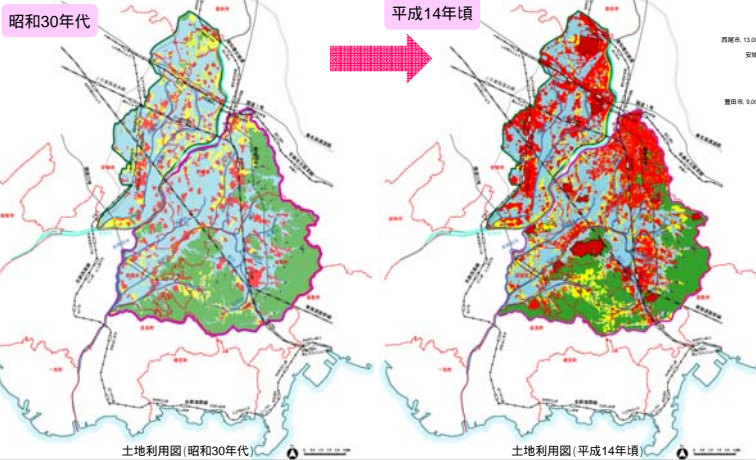
矢作古川流域の縦断面

■ 圏域の土地利用の変遷と人口

- 昭和30年代に約1割であった市街地が、平成14年には3倍に増加した。
- 市街化はJR岡崎駅、名鉄東岡崎駅及びJR幸田駅周辺で特に著しく、そのほか、大規模工場の建設もみられる。
- 人口は増加傾向にあり、S55～H17の伸び率は30%程度である。

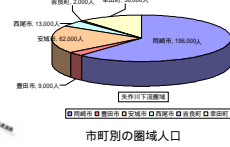


圏域関連市町の人口経年変化



土地利用図(昭和30年代)

土地利用図(平成14年頃)

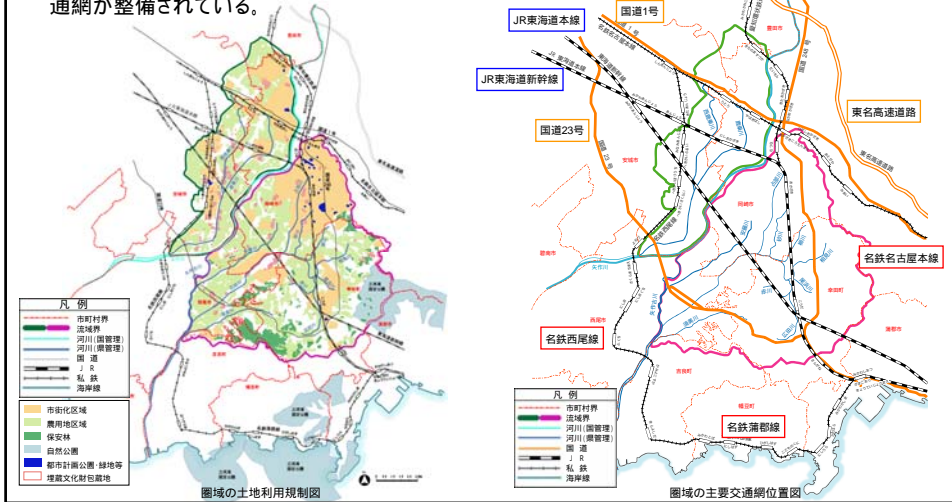


市町別の圏域人口

| 凡例 | |
|---------|---------|
| 市街地 | 市街地 |
| 山地・緑地 | 山地・緑地 |
| 畑 | 畑 |
| 水田 | 水田 |
| 水面 | 水面 |
| 凡例 | |
| 市町村界 | 市町村界 |
| 流域界 | 流域界 |
| 河川(国管理) | 河川(国管理) |
| 河川(県管理) | 河川(県管理) |
| 国道 | 国道 |
| JR | JR |
| 私鉄 | 私鉄 |
| 海岸線 | 海岸線 |

■ 圏域の土地利用規制と交通網

- 農用地区域が広範囲にわたっている。
- 山地部では、保安林、国定公園に指定される地区もある。
- 圏域内の広範囲に埋蔵文化財包蔵地が点在している。
- 国道1号、国道23号の他、JR東海道新幹線、東海道本線、名鉄名古屋本線、西尾線等の重要交通網が整備されている。



2. 矢作川下流圏域の概要

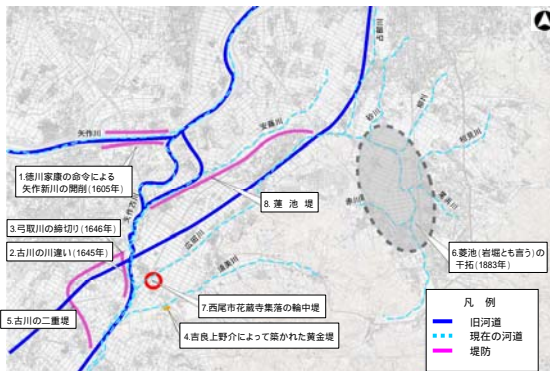
- 2.1 圏域の概要
- 2.2 圏域の歴史
- 2.3 関連計画

■ 矢作古川の歴史(1)

~ 矢作古川 ~

- 矢作川の治水事業は1399年の六名堤の築堤からはじまった。
- 1605年に徳川家康の命令により台地部を開削し、現在の矢作古川から川を付け替え、現在の矢作川本川の川筋が概ねできあがった。

| 出来事 | |
|-----|-----------------|
| 1 | 矢作川新川の開削(1605年) |
| 2 | 古川の川違い(1645年) |
| 3 | 弓取川の締め切り(1646年) |
| 4 | 黄金堤の築堤(1686年) |
| 5 | 古川の二重堤 |
| 6 | 菱池の干拓(1883年) |
| 7 | 西尾市花蔵寺集落の輪中堤 |
| 8 | 蓮池堤 |



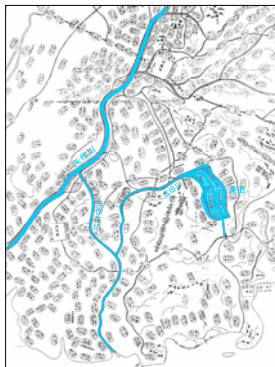
矢作古川流域における治水事業の歴史

■ 矢作古川の歴史(2)

~ 矢作古川 ~

【姿を消した菱池】

- かつて菱池は、広田川の水源となっており、水田のために利用されていた。
- 1883年頃から、矢作川から水を引いた高橋用水、高落用水などができ、菱池の水を必要としなくなった。
- 1885年に神野金之助が開墾を始め、1903年までに53haの水田が開かれ、菱池は姿を消した。



元禄14年(1701年)(西尾市史より)



明治10年(1877年)(栗田東平出版図より)



現在の矢作古川